

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

農林畜産食品部プレスリリース (2017年12月20日08時04分付け) 全羅南道靈岩郡の肉用あひる農場においてH5亜型AI抗原検出

出典 URL:

http://www.mafra.go.kr/FMD-AI/03/01_02.jsp

(機械翻訳等に基づく仮訳)

- 農林畜産食品部(長官:キムヨンロク)は、12月19日(火)、全羅南道靈岩郡の肉用あひる農場(飼育規模:31,300羽)でAI検査を行った結果、H5亜型抗原が検出されたと発表した。
 - この農場は、2017年12月10日、高病原性AIが発生した農場である全羅南道靈岩郡から種あひるが分譲された疫学対象農場で
 - 移動制限措置をしていたなかAI検査を実施した結果、H5亜型抗原が検出されたものである
 - ※ 高病原性かどうかは12月21日頃出る予定
- 農林畜産食品部は初動対応のために、起動防疫機構半分、疫学調査班を急派して、現場防疫総括、疫学調査を実施する一方、現地の家畜防疫官によって、予防的殺処分、移動制限、疫学関連車両と人に対して、鳥インフルエンザ緊急行動指針(AI SOP)に基づいて、緊急防疫措置をとるようにした。
 - ※ 防疫帯(10km)内の家きん飼育状況:
 - 500m以内:あひる農場2(4,200羽)
 - 3km以内:12農場55,000羽(あひる7農場16,300羽、鶏5農場38,700羽)
 - 10km以内:153農場197,600羽(あひる50農場52,400羽、鶏94農場145,200羽)
- また、農林畜産食品部は、AIの拡散を防ぐための遮断防疫措置に家きん農場を含む国民の積極的な協力を要請した。
 - 家きん農場と野生の渡り鳥の飛来地訪問を控える、擬似患畜発生地域の移動制限や消毒を実施するなど、積極的に協力要請した。